

# 病害虫発生予察情報 第3号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 6月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期	
水稲	いもち病（葉いもち）	やや多い	並～やや早い	果樹	果樹全般	カメムシ類	やや多い	—
	紋枯病	やや少ない	並～やや早い		りんご	褐斑病	やや多い	並
	斑点米カメムシ類					輪紋病	少ない	並
	アカヒゲホソドリカスミカメ	やや多い	—			ハダニ類	やや多い	やや早い
	アカスジカスミカメ	やや多い	—			キンモンホソガ	並	—
	トゲシラホシカメムシ	並	—			カイガラムシ類	並	並
	ニカメイガ	並 （一部多い）	早い			日本なし	黒星病	多い
	イネミズゾウムシ	やや多い	—		輪紋病		少ない	並
	イネドロオイムシ	並	並		ナシヒメシンクイ		並	—
	ツマグロヨコバイ	並	並		ハマキムシ類		並	—
大豆	茎疫病	並	並	カイガラムシ類	多い	並		
	タネバエ	並	並	ハダニ類	やや多い	やや早い		
	ネキリムシ類	並	—	ぶどう	灰色かび病	少ない	並	
野菜	野菜全般	タバコガ類	並		並	べと病	並	並
		ネキリムシ類	並	—	かき(三社)	フジコナカイガラムシ	多い	—
	白ねぎ	さび病	やや少ない	並	もも	せん孔細菌病	やや少ない	—
		ネギアザミウマ	並	—	花き	チューリップ	球根腐敗病	やや多い
ネギハモグリバエ	多い	並	球根	アブラムシ類		並	—	
				花き全般	タバコガ類	並	並	

富山県農林水産総合技術センター

農業研究所 病理昆虫課

TEL 076-429-2111

FAX 076-429-7974

情報参考 URL <https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

# I 水 稻

## 1 いもち病（葉いもち）

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**  
発生時期：並～**やや早い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 6月後半の天気は平年と同様に曇りや雨の日が多く、気温は6月全体をとおして高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・ 平年の初発日は7月12日であるが、気象条件によっては6月中旬に確認されることがあるので、BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 防除指針 30～31 ページ参照



BLASTAM  
QRコード  
(毎週火曜更新)

## 2 紋枯病

- (1) 予報内容 発生量：**やや少ない**  
発生時期：並～**やや早い**

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 前年9月5日調査では発病株率が7.2%で平年（9.7%）よりやや低かった。

【早発要因】

- ・ 6月の気温は全体をとおして高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 平年の初発確認日は6月23日であることを踏まえて、ほ場の観察に努める。
- ・ 防除指針 29～30 ページ参照

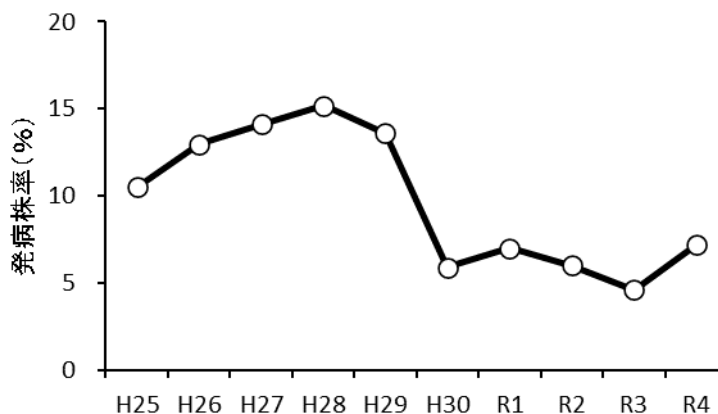


図1 紋枯病発病株率の年次推移（9月5日調査）

### 3 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は1.8頭で平年（1.4頭）並、確認地点率も35.6%で平年（32.5%）並であった。

【多発要因】

- ・ 6月の気温は全体をとおして高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように草刈りに努める。
- ・ 防除指針 42、44ページ参照

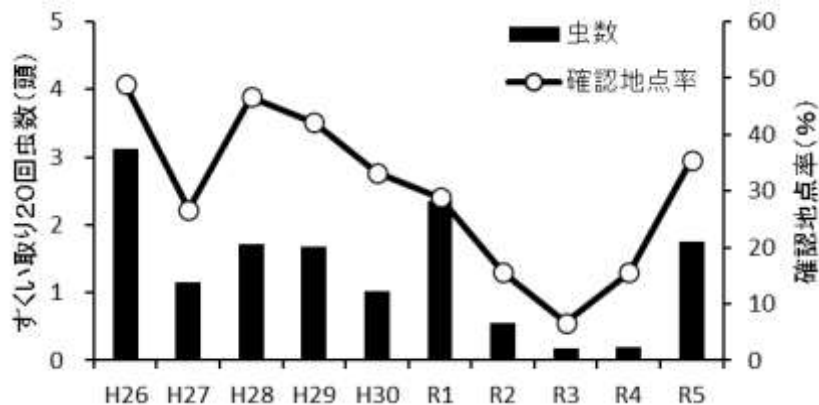


図2 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

### 4 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は3.1頭で平年（1.5頭）より多かった。確認地点率は43.2%で平年（28.2%）より高かった。
- ・ 6月の気温は全体をとおして高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 畦畔等のイネ科雑草の穂が出ないように管理する。
- ・ 防除指針 42、44ページ参照

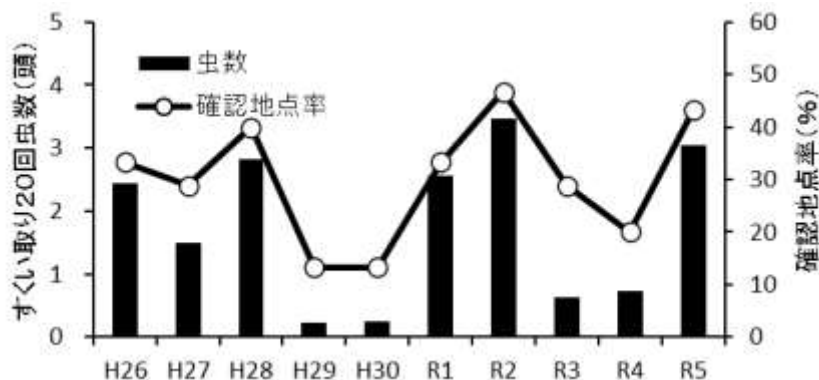


図3 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

## 5 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 5月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は 0.1頭で平年（0.1頭）並、確認地点率は8.9%で平年（4.2%）よりやや高かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 畦畔や周辺雑草地の刈り取りを徹底する。
  - ・ 防除指針 43～44ページ参照

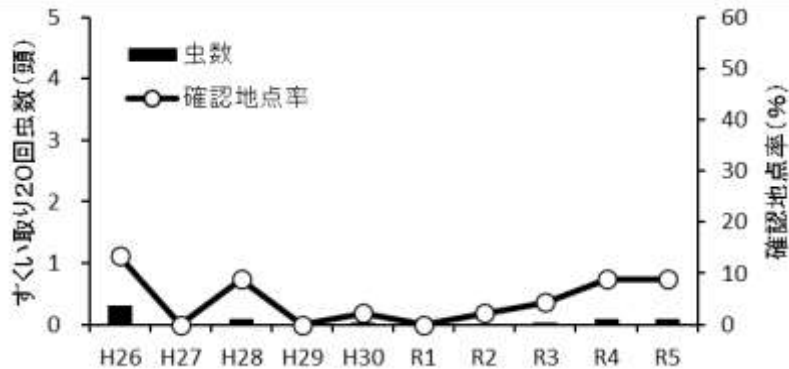


図4 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（5月20日調査）

## 6 ニカメイガ（第1世代）

- (1) 予報内容 発生量：並（一部多い）  
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
  - ・ 前年の越冬前10a 当たり生幼虫数、及び本年のフェロモントラップへの誘殺数は一部地域で多かった。
- 【早発要因】
  - ・ フェロモントラップへの誘殺数は平年より早く確認されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 前年に被害が多くみられた地域では、幼虫の発生がだらついため、箱施薬剤を施用した場合でも必要に応じて適期に本田防除を行う。
  - ・ 防除指針 37～38 ページ参照

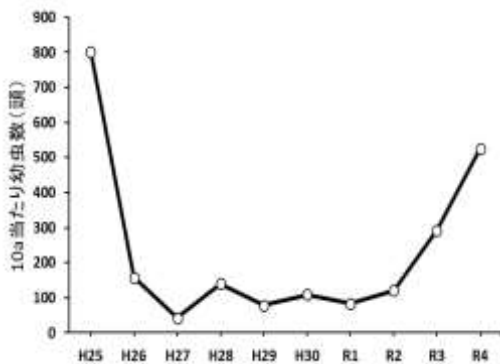


図5 ニカメイチュウの生幼虫数年次推移（越冬前調査）

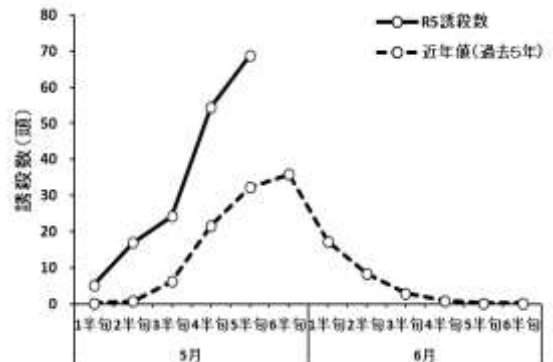


図6 ニカメイチュウトラップへの誘殺

## 7 イネミズゾウムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

・前年6月5日（被害盛期）の調査では、被害葉率3.6で平年（1.1%）より高かった。

- (3) 防除対策

・防除指針 36 ページ参照

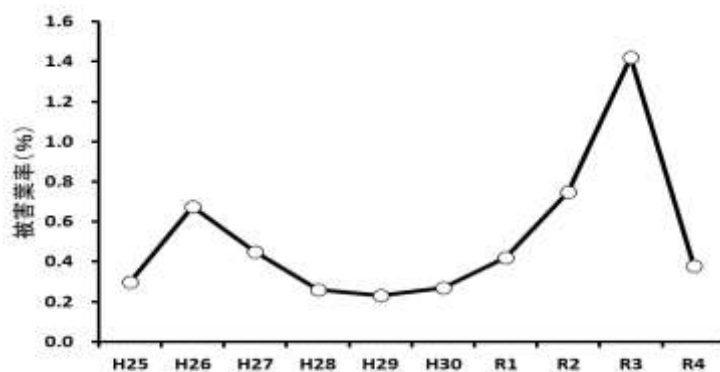


図7 イネミズゾウムシの被害葉率年次推移（越冬前調査）

## 8 イネドロオウムシ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

・前年6月5日（被害盛期）の調査では被害葉率が0.0%で平年（0.0%）並であった。

- (3) 防除対策

・防除指針 37 ページ参照

## 9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：並  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

・越冬後調査のすくい取り20回虫数は0.1頭で平年（0.2頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

・防除指針 39ページ参照

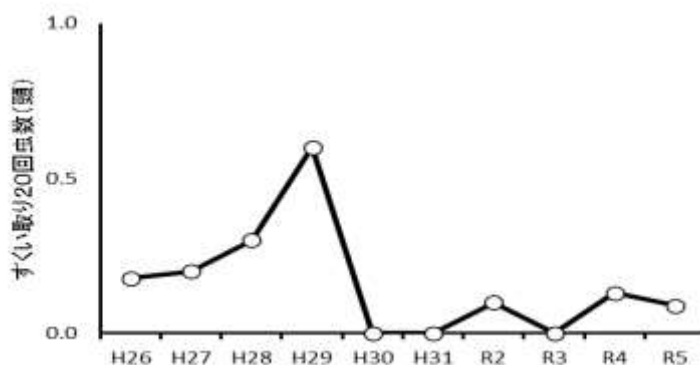


図8 ツマグロヨコバイのすくい取り状況年次推移（越冬後調査）





## 5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：**多い**  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ 5月25日の調査では、被害株率が16.8%で平年(5.3%)より高かった。
- ・ 6月の気温は全体をとおして高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・ 防除指針 99～100 ページ参照

## IV 果樹

### 1 果樹のカメムシ類

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**  
(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は10.6頭で、平年(2.9頭)よりやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・ 発生状況に注意し、園地への飛来がみられる場合は効果の高い薬剤(ネオニコチノイド系殺虫剤等)を散布する。
- ・ 防除指針：りんご 138、143、146～147 ページ、日本なし 149、154、157 ページ、かき 165、169 ページ、もも 172、174 ページ参照

### 2 りんごの褐斑病

- (1) 予報内容 発生量：**やや多い**  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ 前年の発生量はやや多かった。

- (3) 防除対策

- ・ 前年発生が多かった園地や発生が懸念される園地では、薬剤の散布量を十分に確保する。
- ・ 降雨などにより薬剤の散布間隔が10日以上開きすぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・ 主枝や亜主枝から発生している新梢を適宜切除するとともに、枝つりや支柱入れを行い薬剤の到達性を高める。
- ・ 防除指針：138、140～141、145～146ページ参照



### 3 りんごの輪紋病

- (1) 予報内容            発 生 量 : 少ない  
                             発生時期 : 並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なかった。

- (3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が 10 日以上開きすぎないように注意し、雨前防除を実施する。
- ・防除指針 : 138、141、145～146ページ参照

### 4 りんごのハダニ類

- (1) 予報内容            発 生 量 : **やや多い**  
                             発生時期 : **やや早い**

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・前年の発生量はやや多かった。

【早発要因】

- ・3～5月上旬の気温は平年より高かった（平年差 : 3月 +3.4℃、4月 +1.5℃、5月上旬 +0.2℃）。

- (3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生が認められた場合は早めに防除する。
- ・防除指針 : 138、142、144～145、147 ページ参照

### 5 りんごのキンモンホソガ

- (1) 予報内容            発 生 量 : 並

- (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は0.7頭で、平年（1.1頭）並であった。

- (3) 防除対策

- ・第1世代成虫発生盛期（平年では6月上旬頃）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針 : 138、142～143、146～147 ページ参照



## 9 日本なしのナシヒメシクイ

- (1) 予報内容           発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は11.0頭で、平年（10.8頭）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・第1世代成虫発生盛期（平年では6月2半旬頃）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
  - ・防除指針：149、153～154、157～158ページ参照

## 10 日本なしのハマキムシ類

- (1) 予報内容           発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・フェロモントラップによる4月4半旬～5月3半旬の誘殺数は3.4頭で、平年（1.4頭）並であった。
- (3) 防除対策
  - ・越冬世代成虫発生盛期（平年では5月4～5半旬頃）の7～10日後に防除を実施する。
  - ・防除指針：149、153～154、157～158ページ参照

## 11 日本なしのカイガラムシ類

- (1) 予報内容           発生量：**多い**  
                          発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・前年の発生量は多かった。
- (3) 防除対策
  - ・前年発生が多かった園地では、アプロードフロアブル（1,000倍）を散布する。
  - ・防除指針：149、153～154、157～158ページ参照

## 12 日本なしのハダニ類

- (1) 予報内容           発生量：**やや多い**  
                          発生時期：**やや早い**
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・前年の発生量はやや多かった。



(3) 防除対策

- ・第1世代ふ化幼虫発生期（平年では6月下旬～7月上旬頃）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：165～166、168～169ページ参照

## 16 もものせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量はやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・果実への感染を防ぐため、6月中旬までに袋掛けを終了する。
- ・発生の多い園地では、6月上旬までに袋掛けを終了し、速やかにICボルドー412（50倍）を散布する。ただし、薬害防止のため、散布後2～3日程度降雨が予想されない時期を見計らって散布する。
- ・防除指針：171～172、174ページ参照

## V 花き・球根

### 1 チューリップの球根腐敗病

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月の気温は全体をとおして高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・発病株の抜き取りを徹底する。
- ・適期の掘り取りに努める。
- ・掘り取り後は速やかに水洗・乾燥する。
- ・防除指針：188ページ参照

### 2 チューリップのアブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・チューリップ予察ほ場（無防除）において5月中旬以降の有翅虫飛来数が平年並である。

(3) 防除対策

- ・生育後半まで定期的に薬剤を散布する。
- ・防除指針：189、207～208 ページ参照

### 3 タバコガ類（タバコガ、オオタバコガ）

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月3～5半旬の誘殺数は、タバコガが0頭で平年（0.9頭）より少なく、オオタバコガは1.0頭で平年（2.0頭）より少なかった。
- ・6月の気温は全体をとおして高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 196、202、203、208、209、212 ページ参照

#### 令和5年度農薬危害防止運動の実施について

- 全国運動のテーマ：「守ろう 農薬ラベル、確かめよう 周囲の状況」
- 富山県の運動期間：農薬の繁用期である「4月13日～9月14日」



# 北陸地方 3か月予報

(予報期間 6月から8月)

5月23日

新潟地方气象台 発表

## <予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並の確率が30%、平年より多いが40%です。

6月 期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は、平年並の確率が30%、平年より高い確率が40%です。

降水量は、平年並の確率が40%、平年より多い確率が30%です。

7月 平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

気温は、平年並または多い確率ともに40%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

項目	地域	06月~08月	06月	07月	08月
		気温	北陸地方	北陸地方	北陸地方
降水量	北陸地方	北陸地方	北陸地方	北陸地方	北陸地方
		北陸地方	北陸地方	北陸地方	北陸地方
		北陸地方	北陸地方	北陸地方	北陸地方
		北陸地方	北陸地方	北陸地方	北陸地方

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)